※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	古典芸能（長唄）	単位数	１単位中	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

技芸に関する実習は、舞台に上がり観客に披露して、初めて学習の目的が達せられる。予算等の難しい面はあるが、可能な限りそのような機会を設けたい。

2　学習の到達目標

（1）長唄の歴史など古典芸能の基本的な知識を学ぶとともに、その技法を習得してクラス全員で「供奴」の合奏を行うことを目標とする。

（2）それぞれの意図に基づいた表現技法を理解し実践することを目標とする。

（3）学習活動に主体的に取り組むことで、良き鑑賞者の育成を目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	●以下の項目において２年次を上回る習得を目指す。 ・古典芸能の基本的な知識や内容を理解する。 ・長唄に関する歴史を学び、表現方法や鑑賞方法等を理解する。 ・日本の古典芸能を学習するうえでの礼儀作法を学習する。	●以下の項目において２年次を上回る習得を目指す ・江戸時代に歌舞伎の伴奏音楽として発展し、歌舞伎とともに一ジャンルとして普及し続けている意義について考えている。 ・合奏の意図に基づいた表現等を生かした表現や、現代に生きる表現について構想し、工夫している。	●以下の項目において２年次を上回る習得を目指す ・古典芸能のよさを感受し、芸能の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・古典芸能を学ぶうえでの所作を学び、また所作の裏にある意図や理由を正しく理解し、真似をして表現しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	長唄演奏	・発表曲の基礎知識 (楽器の名称・歴史・楽器の扱い・座り方・撥の当て方・姿勢・楽譜の読み方)	a: 三味線の礼儀作法、構造、楽譜の読み方を知り、実際に演奏することができる。 b：三味線本来の良さを味わい、異なる表現方法について考えている。 c: 礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	実技テスト	筆記テスト	授業観察
	仕上げ練習	・発表会曲「供奴」	a:正しい姿勢・正しいリズム・音程で演奏することができる。 b：三味線本来の良さを味わい、異なる表現方法について考えている。 c: 礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	実技テスト	筆記テスト	授 業観察
後期	様々な曲①	・発表曲以外の長唄に触れる		実技テスト	筆記テスト	授 業観察
	様々な曲②	・発表曲以外の長唄に触れる		実技テスト	筆記テスト	授 業観察
後期	長唄の完成	・さらに発展した演奏の習得		実技テスト	筆記テスト	授 業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度